9月「中秋の名月」

9月といえばお月見ですね。
お月見をする中秋の名月の由来は諸説あり、国によって風習も様々のようですが、日本の場合は平安時代に中国から伝わった「十五夜に月を見ながら宴をする風習」が始まりとされているようです。
江戸時代の頃になると庶民にも広まり、月を鑑賞するだけでなく月に農作物の収穫を感謝したり、豊作を願ったりする意味も加えられたとされていて、現在のお月見に近い形になっていったようです。
ちなみに、今年の中秋の名月は9月10日で満月と偶々重なったそうですが、必ずしも中秋の日に満月の日になるわけではないようです。

この記事を書いている時は8月なので実際のお月見はまだ先ですが、お盆にお月見だんごを作ってみました(十五夜は旧暦の8月15日)。
今回は白色だけだと寂しいので、
かぼちゃとにんじんを潰したものを
それぞれだんご粉に加えた3色にしてみました。

お団子作りが楽しいようで「自分でできるよ！」と
張り切っていたので母は傍で見守るだけ…
少し水分が多かったようで形成に苦戦していましたが、
なんとか最後まで子どもたちだけで作りました。

ホットプレートで茹でたので、
それぞれお団子が浮き上がって来る様子を
観察して楽しんでいました！

形はどうあれ、自分たちで作ったお団子は美味しかったようです。
野菜嫌いの下の子ですが、この日、由来や食べ物に感謝することを
話しながらお団子を作ってから、
「お野菜食べる！」と少し食べてくれる野菜が増えました！
季節を楽しみつつ、子どもたちの成長にも繋がったようです。